

Catalogue No.

20454-197

category

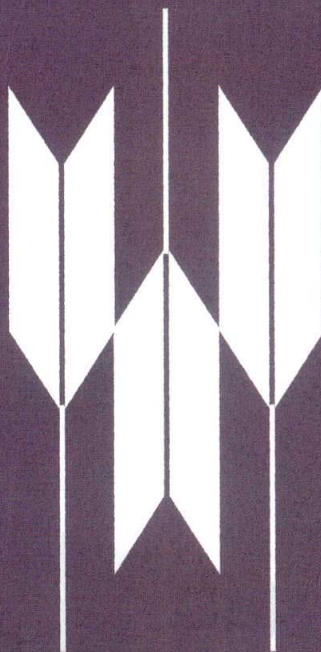
12

ceramic ware

【和の文様・やがすり】

矢鉾（やがすり）は、江戸時代結婚の際に嫁入りの支度に矢羽根をモチーフとした着物を持たせると出戻ってこない（射た矢が戻ってこないことから）といわれるようになり、戻らない、まっすぐに突き進むことから縁起柄とされています。

小鉢・珍味入



料理箱、料理皿、弁当箱、盛り込みが料理を盛りつける主役とすれば、小鉢や珍味入は脇役といえるかもしれません。ただ、主役を引き立てるのも脇役次第、主役との絡みでさらに料理をおいしく見せる名脇役です。また、使い方次第で盛りつけの主役となるのも小鉢・珍味入のおもしろいところです。「用美」の小鉢・珍味入れは、料理人の創造力を高める色・形・素材に富んでいます。